

設立趣意書

一般社団法人ネオコスモ



一般社団法人ネオコスモ

1. はじめに（教育と障害者福祉をとりまく環境）

2023年3月現在、日本国においては少子高齢化に伴い、高齢者人口は増え続けている一方で、出生数は減り続け2022年（令和4年）の出生数は統計開始以来初の80万人を割り込むという状況にあります。

一方で、少子化で子供の数は減っているにも関わらず、文部科学省が不登校（年間30日以上欠席者）の数は学校外の施設等での学習も出席とみなすなどの弾力的な出席要件の緩和策が講じられても、2021年度（令和3年度）における小中学生の不登校数は24万4940人、高校生の不登校は5万985人（文部科学省, 2022 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査）と増加しています。

また、高校中退者の総数は2000年代初頭から減少傾向にありますが、不登校、高校中退経験者が多く通う通信制高校の在籍人数は増加しており2022年度（令和4年度）では23万8,267人となっています（文部科学省, 2022 学校基本調査）。通信制高校に様々な局面で社会への不適應を抱える人が入学していることを示唆する数字です。

2011年（平成23年）の障害者基本法の改正で「障害者」の定義を「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害がある者で障害及び社会的障壁により継続的に日常生活または社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいう。」としてその定義の範囲が拡大されました。

これにより、2012年（平成24年）の児童福祉法改正により、障害のある子どもが身近な地域で適切な支援が受けられるように、従来の障害種別に分かれていた施設体系が一元化され、この際、児童発達支援は、主に未就学の障害のある子どもを対象に発達支援を提供するものとして位置づけられました。

また、2012年（平成24年）に障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）が自立支援法から実質的に改正した結果、これまでも困難を抱えながら存在していたがその法の対象の枠の外にあった人が障害福祉サービスを受取る社会環境が整備されました。

これらの法整備は、子どもの教育・生活に悩む保護者にとっては福音であったと考えています。しかしながら、法の施行とそれに伴う障害福祉サービス提供以後、民間として精神障害（発達障害を含む）人および不登校、高校中退者を対象として教育サービスを提供

してきた事業者は、公的な障害福祉サービスによって「生徒」を奪われたちまち経営不振に陥りました。

家計の自己負担が少なくかつ「教育的」なサービスも受けられる公的な障害福祉サービスを利用できる環境を整えば、多くはそのサービスを利用することを選択することになるのは自明の理でした。

コスモから継承した理念

法人の創設者2名は、大手予備校が設置運営する「コスモ」（高卒認定（旧大検）からの大学進学等を目指すコース）で働いてきました。一人は1999年（平成11年）から、もう一人は2007年（平成19年）から2022年（令和4年）までです。私たちは、不登校や高校中退の経験を持つ生徒を対象に「コスモ」で生活相談、学習相談、進路指導を行ってきました。

「コスモ」とは名の通り宇宙を意味し、「高校とは違うもう一つのコース」として、1988年（昭和63年）に名古屋で開校しました。

「コスモ」の設立の中心となったのは講師の牧野剛氏でした。牧野氏は「予備校が金を儲け過ぎているだけはだめだ、社会的責任・社会貢献として受験戦争を煽った結果現出した高校中退者の増大という社会問題に正面から取り組むべきである」と主張して「コスモ」を作ったと、本人から聞かされたものです。

牧野剛氏が亡くなった後に2016年（平成28年）9月に開催された偲ぶ会では、精神科医の木村敏氏が牧野氏の教育観について「教育における中動態」を模索した人と評されていましたが、牧野氏が「コスモ」で提供したいと考えていた教育はまさにそのとおりであったと思います。

「能動態」の教育を提供する人と「受動態」の教育を提供される人という人間関係構造を排し、自ら考える人に成長するように横に立って一緒に考えるというスタンスは、今日のアクティブラーニング的な教育手法の根幹にある哲学や障害者基本法の理念とも通ずる当時の時代の先の実践を行っていたと思います。

「コスモ」は中学校を卒業した15歳以上を対象とし、主に16歳から20歳ぐらいまでの人、中には30代、40代、60歳を超えた定年後の人も生徒として学んでいました。

「コスモ名古屋校」の最晩年である 2021 年度（令和 3 年度）の生徒は、不登校や高校中退の経験者であり、通信制高校に在籍しながら通う生徒もいました。また、メンタルクリニックや精神科に受診しながら通っている生徒や療育手帳をもって通っている生徒も多くいました。

「コスモ名古屋校」では開校当初から閉校までの 30 余年の間に多くの生徒が在籍し、学び、「コスモ」を通り抜けて進学や就職をするなどして社会へと再参入を果たしていきましました。今でも「当時はお世話になった」と連絡をくれる OB も大勢います。

大きな流れから外れる者というのはいつの時代も変わらず、一定の割合において発生するものであります。障害及び社会的障壁により継続的に日常生活または社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものは常に存在しているわけで、適切な支援があれば社会の中で活躍できるはずで。

2. ネオコスモ設立の決意

そこで、この「コスモ名古屋校」閉校という状況をうけて「教育から福祉へ」と転進をする決意を固め、「ネオコスモ」を二人で設立することにしました。

今はなき「コスモ」コースの理念を引き継ぐ意志をこめて一般社団法人ネオコスモと名付けました。

教育の領域における支援から福祉の領域において、これまでと同じような主に精神障害（発達障害を含む）人を対象に障害福祉サービスとして就労移行支援事業所を開所し、利用者の方たちが仕事に就けるように訓練をするサービス提供をしていきます。

一般社団法人ネオコスモは、障害者福祉を社会に普及させることを目的とします。この法人は、上記の目的に資するために、まず障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業を開始することとします。

また、隣接分野における障害福祉サービス事業を提供していきます。

2022 年（令和 4 年）11 月 11 日

設立時社員 榊原 学

設立時社員 楠 正博